

教育映画祭、優秀作品に5作

高木監督（唐津市出身）席巻

東京都
唐津市

児童虐待や防災など幅広いテーマの教育映画を発表し続けている唐津市出身の映画監督高木裕己さん(73)

東京都在住の作品5点が、今年の教育映画祭で、最優秀作品（3点）に次ぐ優秀作品に選ばれた。優秀作品受賞作は20点で、大手映画会社も出品する中、高木監督作品が4分の1を占めた。29日に都内で表彰式が開かれる。



高木裕己監督
「障害のある方への合理的配慮」の場面



障害者描く作品「ハート」の必要性訴え

受賞作は、職能教育部門の「障害のある方への合理的配慮 考え方とは？ 進め方とは？」をはじめ、小学生向けの「君は、ひとりじゃない」SOSの出し方、知っていますか」、中学生向けの「誰にも相談できない？」SOSの出し方を知ってこころ」、社会教育部門の「巨大地震 あなたの家は耐えられますか？ 耐震診断と耐震補強」「自転車の安全こころにも注意 家族全員がヘルメット着用」の5作品。

このうち、「障害のある方への合理的配慮」は、来年4月から民間の事業者にも義務化される「合理的配慮」を取り上げた。国連アジア太平洋经济社会委員会が社会課題担当官を務める秋山愛子さんを監修・アドバイザーに迎え、基本的な考え方や進め方を紹介している。

高木監督は「障がい者に対して『ハート』だけを提供するのではなく、私たちの『ハート』も変えていかなければならない」と話している。

（古賀史生）

▼合理的配慮の「提供義務」シリーズ基礎学習編「障害のある方への合理的配慮」は、DVD（カラ、20分）で販売。図書館などのライブラリー価格は税別6万8千円。問い合わせは映学社、電話03（33659）9729。